

病虫害防除所情報 第1号

令和2年5月1日
山梨県病虫害防除所

【せん孔細菌病の防除について】

1. 状況

4月上旬に行った巡回調査では、芽枯れ枝、先端の枯れた枝、生育不良枝、黒紫色に変色した枝など、せん孔細菌病に罹病し、発生 of 伝染源となる可能性のある枝が散見された。

このような枝は、本病の常発地域や昨年本病が多発した地域、降雹の被害の大きかった地域で多い傾向があった。

4月下旬の現地巡回調査では、春型枝病斑（スプリングキャンカー）と思われる枝が目立つようになり、一層の防除対策の徹底が必要である。

2. 防除対策

春型枝病斑（スプリングキャンカー）や芽枯れ枝等の罹病枝は、今後の本病の伝染源となるため、これらの枝の剪除などの耕種的防除と薬剤防除を継続して徹底する。

特に、罹病枝を残したままで強い風や雨が続くと、その枝が伝染源となり葉や幼果へも感染が拡大するおそれがある。

(1) 耕種的防除

黒紫色に変色した春型枝病斑、芽枯れ枝、先端の枯れた枝、生育不良枝は、見つけ次第せん除し、ほ場外に持ち出すか土中に埋めて処分する。

特に、樹冠上部に残すと、降雨により樹全体に感染が拡大するため注意する。

(2) 薬剤防除（表1）

葉や幼果に感染してからでは防除効果が低下するため、下表を参考に定期的（7～10日間隔）に薬剤を予防散布する。使用する薬剤の使用回数、収穫前日数に注意する。

表1 せん孔細菌病の生育期防除剤

時期	防除薬剤(100㎡あたり薬量)	使用回数	収穫前日数	注意事項
7～10日間隔	マイコシールド 1,500倍(66g)	5回以内	21日前まで	○枝先から樹全体にかかるよう十分散布する。
	アグレプト液剤 1,000倍(100cc) アグレプト水和剤 1,000倍(100g)	2回以内	60日前まで	○アグレプト液剤・水和剤は、使用回数、収穫前日数に注意する。おうとう、ぶどう等への飛散に注意する。

- ・低温が続くと病斑は長期間感染源（1ヶ月以上）となるので、使用回数や収穫前日数に注意し、追加防除を行う。生理落果の少ない品種では、予防散布後、早めに袋かけを行う。
- ・降雹や突発的な暴風、豪雨により新梢や葉、幼果が傷つくと、急激に感染が拡大する恐れが高いため、追加防除を行う。
- ・スプリンクラー等のかん水が直接枝葉や樹に当たると、感染が拡大するため、直接かん水が当たないように注意する。

参考(春型枝病斑の特徴)

- ・ 枝が黒ずみ(黒紫色)、へこみ、やがて亀裂が入る。
- ・ 新梢、葉の伸びが悪い。
- ・ 病斑より先端が枯れ込む。 等



枝が黒ずみ(黒紫色)、へこみが見られる枝



先端部と基部の芽枯れした枝

芽枯れ枝 (枝が黒ずみ(黒紫色)、へこみが見られる)



先端が枯れ込んだ枝



新梢、葉の伸びが悪い枝

